我國に於ける白熱電燈普及の變遷*

正會員 山 内 二 郎

正會員 山 崎 源 貞

(逓信省電氣試驗所第三部)

Statistics of Electric Incandescent Lamps Used in Japan.

By Ziro Yamauti, Member.
Motosada Yamasaki, Member
(Electrotechnical Laboratory Ministry of Communication)

内 容 梗 概

昭和元年末までの白熱電燈普及の變遷について、種々な統計をとつたものである。

Synopsis.

The statistics of electric incandescent lamps used in Japan in 1926 are shown and compared with those of the past ten years.

Carbon lamps for the lighting purpose almost disappeared from the market and were only 0.01% of total lamps used in 1926.

The size used become larger and larger: about 29% of total lamps used are those larger

than 20 cp lamp.

The degree of popularization of electric lamps also shows the tendency of making rapid progress.

Similar statistics are taken for six largest cities in our country.

The tables and diagrams may be consulted as they are explained in English.

緒 言

昨年末本學會創立十週年記念號に我國に於ける電燈、電熱事業の過去十ヶ年間の發達變遷を辿る目的で種々な統計を圖、表として示した。最近昭和元年末の電氣事業要覽が刊行されたので同様な諸統計を取つて補つた。電熱及特許關係の統計は都合によつて省略した。

1. 白熱電球の發達變遷

電球の種類

我國に於ける白熱電球の發達變遷は第一表及び第一圖に示す通りである。炭素纖維電球、真空タングステン電球、瓦斯入タングステン電球の變遷を明かに看取することが出来る。昭和元年末に於て炭素纖維電球は僅かに 0.01 パーセントに過ぎない。

電球の大いさ

使用電球の大いさについて見ると社會文化が向上すると共に漸次高ワツトのものを多く使用する様になつて來た事は第一、四、五圖及び第一表で明に認められる。又昭和元年末に於ては大正十四年末迄に示せる傾向とはやゝ異なり 16 燭光以下の大さの電球の使用率は減少し其れに反して 20 燭光以上の比較的高ワツトの電球の使用率は著しく増加し、大正十四年末の 17 パーセン

* 到着月日：—8 月 24 日

第一圖

第一表

電球の總數に對する使用率（百分率）

年次	十燭光未滿電球	十燭光電球	十燭光以上電球	二十燭光以上電球	炭素電球	タングステン電球
明治 40	39.19	34.22	23.56	2.92	99.88	
" 41	39.13	36.83	21.73	2.55	99.85	
" 42	39.15	39.27	19.54	1.90	99.86	
" 43	40.79	40.03	7.17	1.94	99.70	0.23
" 44	45.09	38.56	14.17	2.13	95.94	1.14
大正 1	50.67	35.06	11.72	2.52	92.10	7.85
" 2	49.50	37.67	9.73	3.06	76.23	23.74
" 3	47.80	38.40	10.22	3.55	59.34	40.63
" 4	47.35	37.22	10.91	11.13	50.74	49.24
" 5	39.87	35.27	18.34	6.51	32.46	67.52
" 6	33.02	38.26	18.79	9.92	5.84	94.15
" 7	29.56	40.06	19.99	10.63	3.66	97.17
" 8	26.43	40.66	20.33	12.54	0.98	99.01
" 9	23.61	39.88	22.12	14.38	0.32	99.66
" 10	21.38	40.79	23.43	14.39	0.26	99.74
" 11	17.28	40.84	23.83	18.05	0.23	99.77

大正	12	15.10	41.04	26.04	17.82	0.20	99.80
"	13	14.94	38.07	28.54	18.36	0.05	99.95
"	14	14.67	32.41	36.04	16.87	0.01	99.98
昭和	1	12.09	29.81	29.07	29.02	0.01	99.99

第 二 圖

トに比し僅か一ケ年後の昭和元年末に約倍加に近く 29 パーセントと云ふ高使用率を示して居る。

第 二 表

年 次	平均比消費量 W.P.C.	一燈當り消費電力 W.	一燈當り燭 C.	平均能率 L.P.W.
明 治 36	3.46	43.36	12.53	2.89
37	3.46	40.01	11.56	2.88
38	3.46	38.67	11.17	2.89
39	3.46	38.62	11.16	2.89
40	3.46	38.29	11.06	2.89
41	3.51	37.17	10.58	2.85
42	3.54	36.55	10.33	2.83
43	3.52	34.90	9.91	2.84
44	3.13	31.62	10.09	3.19
大 正 1	3.06	28.87	9.43	3.27
2	2.80	25.88	9.23	3.57
3	2.43	22.72	9.36	4.12
4	2.35	22.06	9.40	4.26

5	1.85	22.57	12.20	5.40
6	1.41	16.77	11.93	7.10
7	1.38	16.97	12.34	7.28
8	1.31	16.74	12.81	7.65
9	1.28	17.31	13.52	7.81
10	1.28	18.09	14.14	7.82
11	1.31	19.57	14.97	7.65
12	1.29	19.83	15.41	7.77
13	1.38	22.75	16.53	7.27
14	1.25	21.02	16.88	8.03
昭和 1	1.25	22.67	18.17	8.01

第三圖

昭和1年
(1926)

第 四 圖

第二表及第二圖は全國に於ける平均一燈當りの平均比消費量，消費電力，光度及能率を示して居る。(光束は燭光を一〇倍したものとつた)。之れより見るも又一燈當りの單位が漸次増大し，高ワツトの電球の使用と共に能率も向上しつつある事が看取せらる。

2. 電 球 の 普 及 率

第三表及第三乃至五圖は各年の使用電球の總個數並に各種類の大きい電球個數をパーセントにて示せるものにして，其増加率の如何に激甚であるか思ひ半ばに過ぐるものがある。

第 五 圖

第 三 表

年 次	燈 數	全 燈 數	十 燭 光 未 滿	十 燭 光 燈 數	十六燭光燈數	二十燭光以上 燈 數
明 治	40	781,820	306,386	267,508	184,176	22,839
	41	1,120,092	438,399	412,554	243,403	28,569
	42	1,466,560	574,089	575,963	286,546	27,894
	43	1,949,047	794,986	780,222	334,674	37,732
	44	2,817,830	1,270,454	1,086,489	399,275	60,045
大 正	1	4,094,661	2,074,748	1,435,414	479,691	103,066
	2	5,595,062	2,769,714	2,107,929	544,155	171,411
	3	6,994,440	3,343,545	2,685,985	715,014	243,341
	4	7,538,329	3,569,277	2,806,066	822,471	839,116
	5	9,035,468	3,602,003	3,186,855	1,656,793	588,531
	6	10,317,303	3,407,131	3,947,068	1,939,010	1,023,078
	7	11,900,683	3,517,330	4,767,314	2,379,345	1,265,113
	8	14,167,635	3,743,829	5,760,783	2,880,461	1,176,077
	9	16,137,870	3,810,691	6,435,709	3,568,968	2,320,029
	10	18,114,095	3,873,420	7,387,986	4,244,949	2,606,794
	11	20,522,324	3,547,265	8,330,344	4,889,478	3,704,685
	12	21,687,810	3,274,103	8,900,631	5,647,964	4,864,344

	13	24,447,632	3,656,372	9,318,950	6,977,735	4,498,811
	14	27,320,740	4,007,436	8,855,779	9,846,315	4,610,287
昭和	1	30,159,042	3,645,850	8,991,687	8,768,506	8,752,384

第 四 表

		一人當り平均燈數	一人當り平均電力消費量	一人當り平均燭光
大 正	4	0.137	3.08	1.31
"	5	0.165	3.32	1.80
"	6	0.187	3.15	2.23
"	7	0.214	3.62	2.63
"	8	0.251	4.22	3.22
"	9	0.284	4.90	3.83
"	10	0.324	5.84	4.58
"	11	0.367	7.15	5.49
"	12	0.370	7.37	5.72
"	13	0.414	9.42	6.84
"	14	0.457	9.62	7.72
昭和	元年	0.495	11.60	9.05

第 六 圖

第四表及第六圖は人口一人當りの燈數，ワット，及燭光を示すもので何れも甚だしき増加を示して居る。

全國使用電燈の一燈當の大きさ(最大, 平均, 最小)

第七圖

(電燈需要狀況ノ變遷)

一人當り平均「ワット」數別縣數

各縣平均一人當リルン數
(大正十四年)

Lumens per Head of Each Prefecture
in Japan. (1925)

第九圖

各縣平均一人當リルン數
(昭和元年)

Lumens per Head of Each Prefecture
in Japan. (1926)

第十圖

電燈用電力需要狀態

(大正十四年)

Watts Used for Lighting per Head (1925)

人ロー人當リ ワット数

一人當リワット数

Watts per Head

10ワット以上

above 10

8ワット以上 10ワット以下

above 8 & below 10

6ワット以上 8ワット以下

above 6 & below 8

4ワット以上 6ワット以下

above 4 & below 6

4ワット以下

below 4

最高(Maximum) 東京府 20.6 Tokyo Prefecture

最低(Minimum) 徳島縣 3.5 Tokushima Prefecture

平均(Mean) 9.6

琉球沖線縣
Okinawa Prefecture
(excluded) 0.7

第十一圖

電燈用電力需要狀態

(昭和元年)

Watts Used for Lighting per Head (1926)

人ロー人當リ ワット数

一人當リワット数

Watts per Head

10ワット以上

above 10

8ワット以上 10ワット以下

above 8 & below 10

6ワット以上 8ワット以下

above 6 & below 8

4ワット以上 6ワット以下

above 4 & below 6

4ワット以下

below 4

最高(Maximum) 東京府 29.7 Tokyo Prefecture

最低(Minimum) 鹿児島縣 4.0 Kagoshima Prefecture

平均(Mean) 11.6

琉球沖線縣
Okinawa Prefecture (excluded) 0.0

第十二圖

電燈普及狀態

(大正十四年)

Number of Lamps per 100 Heads (1925)
人口百人當の燈數

第十三圖

電燈普及狀態

(昭和九年)

Number of Lamps per 100 Head (1926)
人口百人當の燈數

第十四圖

第 五 表

地 方	人口百人當り平均燈數	一ロ一人當り平均電力	人口一人當り平均ルーメン	地 方	人口百人當り平均燈數	一ロ一人當り平均電力	人口一人當り平均ルーメン
東 京	100.0	29.70	236.2	廣 島	49.0	9.98	79.1
神奈川	65.5	16.35	187.6	島 取	45.0	6.12	48.0
埼 玉	38.5	7.75	59.0	島 根	44.0	5.71	46.1
群 馬	43.0	9.61	78.0	岡 山	48.5	7.86	61.7
千 葉	23.0	4.85	37.9	山 口	38.0	8.08	63.8
茨 城	26.0	5.28	41.5	香 川	34.0	6.24	49.4
栃 木	32.5	6.18	48.9	愛 媛	42.0	8.42	64.5
靜 岡	47.5	10.43	34.6	熊 本	41.5	8.88	68.8
山 梨	46.0	9.26	72.4	長 崎	31.5	6.82	56.6
愛 知	59.0	14.54	114.0	福 岡	50.0	11.72	97.4
三 重	47.0	8.25	63.6	大 分	43.0	8.18	66.2
岐 阜	46.0	9.22	73.8	佐 賀	38.0	7.38	60.2
長 野	48.5	9.90	79.9	宮 崎	35.0	5.72	48.8
福 井	52.5	8.98	68.8	鹿兒島	23.0	4.33	33.8
石 川	51.5	8.78	68.0	沖 繩	5.0	0.77	53.1
富 山	50.5	10.55	81.0	宮 城	31.0	5.95	49.9
大 阪	80.0	21.70	180.5	新 潟	48.0	9.86	80.6
京 都	89.5	21.92	186.0	福 島	33.0	6.48	50.9
兵 庫	62.0	12.30	98.0	岩 手	25.0	5.45	41.8
奈 良	49.5	8.63	67.5	青 森	31.0	6.08	46.8
滋 賀	49.0	8.16	63.8	山 形	33.0	6.36	49.9
和歌山	43.5	10.02	74.0	秋 田	27.5	5.03	40.0
德 島	36.5	6.22	46.5	北海道	39.5	10.27	84.2
高 知	35.5	6.33	47.3	平 均	49.8	11.60	90.6

第五表及第九圖並に第十圖は昭和元年末現在に於ける人口一人當りワット及ルーメン、第十一圖は人口百人當り燈數について各類別に示したものである。第十二圖乃至第十四圖に比較のため大正十四年末現在に於けるものを示したものである。之等の比較を見れば各縣が一般に向上普及しつつある事がわかる。尙試みに最近四年間に於ける各縣の普及状態を示すと第六表乃至第九表及第八圖の如く各縣が如何に向上普及しつつあるか一目瞭然である。

第 六 表

〔電 燈 需 要 状 況〕

各縣に於ける百人當り平均燈數の變化							
年 次	60燈以上の縣數 A	50燈～60燈の縣數 B	40燈～50燈の縣數 C	30燈～40燈の縣數 D	30燈以下の縣數 E	最大、最小値及其縣名	
						最大燈數	最小燈數
大正十二年	3 縣	0 縣	8 縣	19 縣	17 縣	72.0燈、大阪	4.3燈、沖繩
" 十三年	3 "	3 "	13 "	13 "	15 "	78.6燈、東京	4.2燈、沖繩
" 十四年	3 "	4 "	17 "	12 "	11 "	89.1燈、東京	4.5燈、沖繩
昭和元年	5 "	5 "	17 "	14 "	6 "	100.0燈、東京	5.0燈、沖繩

各縣に於ける一人當り平均ルーメン数の變化

年 次	150 ルーメン以上の縣數 A		100「ルーメン」～150「ルーメン」の縣數 B		75「ルーメン」～100「ルーメン」の縣數 C		50「ルーメン」～75「ルーメン」の縣數 D		50「ルーメン」以下の縣數 E		最大、最小値及其縣名	
											最大「ルーメン」數	最小「ルーメン」數
大正十二年	1	縣	2	縣	2	縣	3	縣	34	縣	152「ルーメン」大阪	4.5「ルーメン」沖繩
" 十三年	2	"	1	"	5	"	17	"	22	"	171「ルーメン」東京	4.5「ルーメン」沖繩
" 十四年	3	"	2	"	2	"	22	"	18	"	168.9「ルーメン」大阪	30.8「ルーメン」鹿児島
昭和元年	3	"	2	"	7	"	20	"	15	"	236.2「ルーメン」東京	33.8「ルーメン」鹿児島

各縣に於ける一人當り平均「ワット」数の變化

年 次	10「ワット」以上の縣數 A		8「ワット」～10「ワット」の縣數 B		6「ワット」～8「ワット」の縣數 C		4「ワット」～6「ワット」の縣數 D		4「ワット」以下の縣數 E		最大、最小値及其縣名	
											最大「ワット」數	最小「ワット」數
大正十二年	3	縣	4	縣	12	縣	22	縣	6	縣	19.5「ワット」大阪	0.66「ワット」沖繩
" 十三年	7	"	5	"	16	"	15	"	4	"	24.8「ワット」東京	0.65「ワット」沖繩
" 十四年	7	"	11	"	13	"	13	"	3	"	20.6「ワット」東京	0.7「ワット」沖繩
昭和元年	11	"	15	"	12	"	8	"	1	"	29.7「ワット」東京	0.77「ワット」沖繩

第 七 表

平均一人當「ワット」數

年 次 ワット數 (一人當平均)	縣 名	大正十二年末	大正十三年末	大正十四年末	昭和元年末
4 ワット 未 滿		千葉, 茨城, 高知 鹿児島, 沖繩, 秋田	千葉, 鹿児島, 沖繩, 秋田	徳島, 鹿児島, 沖繩	沖繩
4~6 ワ ッ ト		神奈川, 埼玉, 栃木, 石川, 奈良, 滋賀, 徳島, 鳥取, 島根, 岡山, 香川, 愛媛, 長崎, 佐賀, 宮城, 大分, 新潟, 福島, 岩手, 山形, 宮崎	埼玉, 茨城, 栃木, 徳島, 鳥取, 島根, 香川, 宮崎, 青森, 岩手	千葉, 茨城, 栃木, 高知, 鳥取, 宮崎, 青森, 香川, 山形, 秋田	千葉, 茨城, 島根, 宮崎, 鹿児島, 岩手, 秋田
6~8 ワ ッ ト		群馬, 静岡, 山梨, 三重, 岐阜, 長野, 福井, 和歌山, 廣島, 山口, 熊本, 北海道	群馬, 山梨, 三重, 岐阜, 長野, 石川, 和歌山, 滋賀, 奈良, 岡山, 山口, 熊本, 大分, 佐賀, 新潟, 北海道	埼玉, 奈良, 滋賀, 岡山, 和歌山, 山口, 愛媛, 長崎, 大分, 佐賀, 新潟, 北海道, 福島	埼玉, 栃木, 徳島, 岡山, 鳥取, 佐賀, 香川, 長崎, 青森, 福島, 山形
8~10 ワ ッ ト		愛知, 富山, 兵庫, 福岡	静岡, 福井, 富山, 廣島, 愛媛	群馬, 静岡, 山梨, 三重, 岐阜, 石川, 福井, 奈良, 富山, 熊本	群馬, 山梨, 三重, 岐阜, 長野, 福井, 石川, 奈良, 愛媛, 熊本, 大分, 新潟, 廣島
10 ワ ッ ト 以上		東京, 大阪, 京都	東京, 神奈川, 愛知, 京都, 兵庫, 福岡	東京, 神奈川, 愛知, 大阪, 京都, 兵庫, 福岡	東京, 神奈川, 静岡, 愛知, 富山, 大阪, 京都, 兵庫, 和歌山, 福岡, 北海道

第 八 表

年次 ルーメン数 (一人當平均)	縣名	大正十二年末	大正十三年末	大正十四年末	昭和元年末
50 ルーメン以下		神奈川, 埼玉, 群馬, 千葉, 茨城, 栃木, 三重, 岐阜, 奈良, 滋賀, 徳島, 高知, 鳥取, 島根, 岡山, 山口, 香川, 愛媛, 佐賀, 宮崎, 鹿兒島, 沖縄, 福岡, 岩手, 青森, 山形, 秋田, 北海道	埼玉, 千葉, 茨城, 栃木, 徳島, 島根, 香川, 鹿兒島, 沖縄, 宮崎, 新潟, 青森, 山形, 秋田, 北海道	埼玉, 千葉, 茨城, 栃木, 徳島, 島根, 香川, 宮崎, 鹿兒島, 福島, 岩手, 青森, 山形, 秋田	千葉, 茨城, 栃木, 徳島, 高知, 香川, 鹿兒島, 宮崎, 岩手, 青森, 山形, 秋田
50~75 ルーメン		静岡, 山梨, 福井, 富山, 和歌山, 廣島, 熊本, 福岡	群馬, 静岡, 山梨, 三重, 岐阜, 奈良, 滋賀, 和歌山, 廣島, 山口, 愛媛, 熊本, 大分, 佐賀	群馬, 静岡, 山梨, 三重, 岐阜, 奈良, 滋賀, 和歌山, 廣島, 岡山, 山口, 愛媛, 熊本, 大分, 佐賀, 新潟, 北海道	埼玉, 山梨, 三重, 岐阜, 福井, 奈良, 滋賀, 岡山, 山口, 愛媛, 熊本, 大分, 佐賀, 沖繩, 福岡
75~100 ルーメン		愛知, 兵庫	神奈川, 愛知, 福井, 兵庫, 福岡	兵庫, 福岡	群馬, 静岡, 長野, 富山, 兵庫, 新潟, 北海道, 福岡
100~150 ルーメン		東京, 京都	京都	神奈川, 愛知	神奈川, 愛知
150 ルーメン以上		大阪	東京, 大阪	東京, 大阪, 京都	東京, 大阪, 京都

第 九 表

年次 燈数 平均百人毎)	縣名	大正十二年末	大正十三年末	大正十四年末	昭和元年末
30 燈 未 滿		千葉, 茨城, 栃木, 徳島, 高知, 香川, 長崎, 鹿兒島, 沖縄, 宮崎, 福岡, 岩手, 青森, 山形, 秋田, 北海道, 宮崎	千葉, 茨城, 栃木, 高知, 長崎, 宮崎, 鹿兒島, 沖縄, 宮崎, 福岡, 岩手, 青森, 山形, 秋田, 北海道	千葉, 茨城, 長野, 宮崎, 鹿兒島, 沖縄, 福岡, 岩手, 青森, 秋田	千葉, 茨城, 鹿兒島, 沖縄, 岩手, 秋田
30~40 燈		神奈川, 埼玉, 群馬, 静岡, 山梨, 三重, 岐阜, 奈良, 和歌山, 廣島, 鳥取, 島根, 岡山, 愛媛, 熊本, 福岡, 大分, 佐賀, 新潟	埼玉, 群馬, 和歌山, 山, 徳島, 鳥取, 香川, 島根, 岡山, 愛媛, 熊本, 大分, 佐賀, 新潟	埼玉, 栃木, 徳島, 高知, 山口, 愛媛, 熊本, 大分, 佐賀, 山形, 北海道	埼玉, 栃木, 徳島, 高知, 山口, 香川, 長崎, 佐賀, 宮崎, 福岡, 山形, 北海道
40~50 燈		愛知, 長野, 福井, 石川, 富山, 滋賀, 山口	神奈川, 静岡, 山梨, 三重, 岐阜, 長野, 石川, 滋賀, 廣島, 山口, 富山, 奈良, 福岡	静岡, 山梨, 三重, 岐阜, 長野, 富山, 滋賀, 和歌山, 鳥取, 島根, 岡山, 福岡, 新潟	群馬, 静岡, 山梨, 三重, 岐阜, 奈良, 滋賀, 和歌山, 廣島, 鳥取, 島根, 岡山, 愛媛, 熊本, 大分, 新潟
50~60 燈		なし	愛知, 兵庫, 福井	神奈川, 愛知, 福井, 兵庫	愛知, 福井, 石川, 富山, 福岡
60 燈 以 上		東京, 大阪, 京都	東京, 大阪, 京都	東京, 大阪, 京都	東京, 神奈川, 大阪, 京都, 兵庫

3. 六大都市の比較

使用電球の發達變遷

第十表及び第十五圖乃至十八圖は大正十二年乃至昭和元年末迄の四年間に於ける使用電球の變遷を示すもので一般に一燈當りの單位が大きくなり殊に東京は非常な勢で増加して居る事が認めらるゝ。

第 十 表

六大都市 = 於ケル使用電球ノ大サ

(大正十二年末現在)

都 市 名	燭 光	ワ ッ ト	ル ー メ ン	ルーメン/ワット
東 京	23.10	27.01	231	8.6
大 阪	16.45	21.83	165	7.6
神 戸	24.13	24.81	211	8.5
京 都	20.64	24.59	206	8.4
名 古 屋				
横 濱				

(大正十三年末現在)

東 京	22.02	25.79	220	8.5
大 阪	24.19	28.57	242	8.5
名 古 屋	18.03	25.14	180	7.2
京 都	20.96	24.86	210	8.4
神 戸	18.78	22.49	188	8.4
横 濱	20.06	23.85	201	8.4

(大正十四年末現在)

大 東 京	24.08	28.28	241	8.9
名 古 屋	21.78	23.07	218	9.4
京 都	22.93	27.07	229	8.5
神 戸	21.04	25.65	210	8.2
横 濱	19.68	23.42	197	8.4
	20.64	24.23	206	8.5

(昭和元年末現在)

都 市 名	燭 光	ワ ッ ト	ル ー メ ン	ルーメン/ワット
大 東 京	23.90	28.05	239	8.5
名 古 屋	25.31	31.08	253	8.1
京 都	22.85	26.77	229	8.6
神 戸	22.27	26.52	223	8.4
横 濱	19.82	23.65	198	8.4
	21.43	25.18	215	8.5

普及状態の變遷

第十一表及び第十九圖乃至二十一圖は大正十二年乃至昭和元年迄の四年間に於ける普及状態を

示すもので、各都市共に一般に非常に普及して居る事が見られる殊に東京、横濱は震災復興の完成につれて非常な増加を示して居る。

第 十 一 表

六大都市ニ於ケル電燈需要狀況(大正十二年末)

都市名	需要家數	燈 數	内從量燈 數 (%)	銘記燭光	ワット數	現在人口百人平均			人 口 順 位
						燈 數	燭 光	ワット數	
東 京	278,309	1,160,365	22.6	21,658,701	26,390.0				1
大 阪	243,376	1,156,307	24.5	26,683,695	31,196.7	92.2	2,130	2,490	2
神 戸	127,504	499,432	43.7	9,250,829	10,941.8	82.0	1,520	1,790	3
京 都	125,274	677,030	53.4	13,215,740	15,588.0	106.0	2,240	2,830	4
名古屋	145,354	470,474	16.8	9,673,122	11,531.5	109.0	2,250	2,680	5
横 濱	33,046	73,148	15.3	1,066,568	1,301.5				6

(大 正 十 三 年 末 現 在)

東 京	254,216	1,571,798	25.9	34,612,808	40,850.7	82.2	1,810	2,120	1
大 阪	247,118	1,241,747	26.4	29,823,624	35,072.0	85.4	2,090	2,440	2
名古屋	152,308	526,887	17.4	11,216,690	13,372.5	72.0	1,540	1,810	3
京 都	131,532	711,164	63.5	14,990,601	17,764.8	105.0	2,200	2,610	4
神 戸	131,849	538,806	46.7	10,166,584	12,119.9	83.6	1,570	18,80	5
横 濱	72,778	199,155	11.2	4,009,866	4,738.0	52.4	1,051	1,250	6

(大 正 十 四 年 末 現 在)

大 阪	439,722	1,968,510	25.8	47,491,350	55,543.0	93.0	2,240	2,630	1
東 京	395,032	2,010,818	74.0	39,940,698	46,420.3	101.0	2,200	2,330	2
名古屋	162,027	575,960	17.9	13,282,792	15,608.5	75.0	1,720	2,030	3
京 都	136,815	783,423	67.0	16,413,199	20,008.5	115.0	2,420	2,950	4
神 戸	133,995	568,672	48.6	12,229,766	13,308.7	88.4	1,740	2,060	5
横 濱	92,549	304,543	18.3	6,287,420	7,390.1	75.1	1,550	1,820	6

(昭 和 元 年 末 現 在)

大 阪	418,535	1,979,530	25.7	47,690,410	55,984.9	91.0	2,175	2,553	1
東 京	397,209	2,281,298	78.6	57,935,837	71,333.6	111.0	2,809	3,450	2
名古屋	164,927	621,849	18.3	14,283,254	16,723.4	78.0	1,782	2,088	3
京 都	140,895	348,813	69.6	18,951,476	22,498.0	121.4	2,703	3,220	4
神 戸	136,063	590,862	51.6	11,722,794	13,991.7	90.8	2,147	2,147	5
横 濱	94,972	347,353	19.8	7,465,700	8,752.4	84.5	2,128	2,128	6

料金制に就いて

六大都市に於ける最近四年間（大正十二年乃至昭和元年末迄）の料金制度の變遷即ち定額従量の割合を示せば第十一表及び第二十二圖に示す如く、神戸市は定額制度と従量制度とが殆んど同じ位の値を示して居る。然し年々従量制が増加する傾向を示して居る。大阪、名古屋、横濱の三都市は大部分定額制度で従量制度は 25 パーセント以下にして、殆んど變化なく一定である。京都市は圖に示す如く大正十二年に於て従量、定額とが相半ばして居り、其れより年々従量制に變遷し昭和元年末には約 70 パーセントが従量制になつて居る。東京市に於ては大正十三年末迄は殆んど定額制にして従量制度は約 25 パーセント以下であつたが、大正十四年供給會社の方針の變更と共に急激の變化をなし、従量制と定額制とが丁度入替り従量制が 75 パーセントになり昭和元年末に於ては約 80 パーセントになつた。

第十五圖

第 十 六 圖

第 十 七 圖

第十 八 圖

第十 九 圖

第二十圖

第二十一圖

第 二 十 二 圖